

授業方法について独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点【教育科学系】

オンデマンドとZoomを組み合わせる実施できたところがよかったとの声があった。ただ、遠隔授業では事例については扱いにくかった。意見交換もしにくかったように思う。

・全体としては好評でしたが、学生から指摘していただいた意見のうち、意見記述等の締切の設定、授業コンテンツのアップロードの時期、意見記述や質問へのよりきめ細やかな対応については、妙案を検討したいと思いました。ただし、気持ちは分かるが取り入れると担当教員が過労で倒れるおそれのある意見、担当教員が努めた事実を誤認している意見もあったので、そこは取り入れられず、申し訳なく思います。
・ごく一部ではあるが、若干攻撃的な記述がありました。そこでの指摘には当たっている部分もありますが、このような記述をされてしまうと、たとえ当を得た部分があったとしても、改善点をこちらで検討しようとする以前に、その攻撃性に若干立ち直れなくなってしまう。残念です。とはいえ、学生の立場に立てば、大学教員がどのような労働環境に置かれているか、コロナ禍でそれがどのように変化したかを知る機会はないと思われるので、気になる記述もありますが、学生の気持ちも分かります。こう考えると、やはり、対面型の機会をうまく導入して学生との関係づくりを進める方法を検討しないといけないと思いました。

【独自に工夫している点】

今年度は遠隔授業(オンデマンド型)ということもあり、授業動画の作成が必要になった。動画の作成に際しては、見やすいスライド作り、情報の明確な提示、分かりやすい授業展開、教科書や補足資料への効果的な指示(関連づけ)に注意した。また、学生の負担が過重にならないよう、課題提示の回数を抑えることにした。

【アンケート結果を受けての改善点】

授業動画(スライドショー)についてはおおむねよい評価をえることができたが、10分程度の動画に区切ってほしいという意見があった(そうすると集中力も途切れず、動画がトラブルで止まることも少ないとのことである)。今後の参考にしたい。また、オンデマンド型授業ということもあり、受講生相互の意見交換の場を設定することが難しかった。「他の人の考え方も知りたかった」「他の人と議論がなかなかできないのは残念だった」という意見があった。「まなびネット」の「フォーラム」を活用して意見交換や議論を呼びかけてきたが、受講生にあまり浸透させることができなかった。今後の最大の課題だと考えている。

前期授業の半ばまでは、遠隔授業であったが、実習科目のため画面上で技術を確認するようにした。対面の授業を後半を行い、手指・器具の消毒(独自で購入した消毒用アルコール)を行い、対人距離を出来るだけとれるように実習項目を精選した。概ね、新たな思考や問題点を深く考えることが出来た学生が多かった。しかし、例年行っていた項目が感染予防のため行えず、また、反復練習出来た内容を時間が足りずに単回で終わり技術修得の満足感を得られなかった自由記述があった。来年度、コロナ禍での実習では自宅で反復練習できる課題を考える。

授業動画作成にあたっては、できるだけ詳しくわかりやすく説明するように心がけた。また過去の実験などわかりにくい内容については、その実験に関する数分のビデオ動画を見せたりして理解を深めるようにした。また授業の最後には「振り返り」として授業の要点に関する簡単な質問を用意した。これらの点は概ね高評価であったが、教員や学生間の意見交換の場がほとんど取れなかった。またICT教育基盤センターのパソコンソフトを使って行う授業では、映像だけで理解してもらうのは難しかった。改善点としては、まなびネット上に「掲示板」を設置して、対面が可能な授業は対面で行うこと、教員や学生同士も気楽に質問したりコミュニケーションできる「掲示板」を設置すること、Teamsなどでオンラインのコミュニケーションが取れるようにすることが挙げられる。

遠隔授業では当然ですが、すべての資料をネットで提供しています。資料は、動画や音声等、なるべく複数のメディアを活用するようにしています。これらの資料は、なるべく授業後もそのまま提供し続けています。また、学習者は、単にこうした資料を見るだけでなく、なるべくインタラクティブに授業に参加できるよう、リアルタイムのアンケート等も活用しています。今回は、特に共通科目について、全体として足並みを揃えることと、授業そのものを盛り上げていくことの両立が、やや準備不足もあって難しかったと感じています。来年度に向けて、担当する皆さまで改善点を協議し、実現していきたいと考えます。

令和2年度前期はすべてオンライン授業でした。外国語科目は、まあまあでした。学生が発言しないことは大きな問題です。しかし、まなびネットによる宿題の提出は非常に良かったです。

オンデマンド式の授業でアクティブラーニングを実施するにあたって、ある事例に対する受講学生からの読み取りや分析をまとめて掲示するという方法を取った。その方法がどれほど学生にとっての学びになっているのかについてはアンケート結果からは読み取れないが、「皆がどのような考え方をしているのか分かった」「自分とは違う考えがあることを知れてよかった」「自分の読み取りがいかに浅いかを思い知らされた」等の声があったことから一定の効果があったと考えられる。ただ、非常に緻密な計画の元に構成された授業コンテンツに比べると改善の余地は多々あると反省している。

個別にメールなどで受けた受講生の質問はできるだけすべて、次の授業スライドの中で説明するように心がけ、受講生全体に質問をシェアし、フィードバックすることを意識した。通信環境の不具合で、授業に参加しづらい受講生がいたことは申し訳なく思う。今後はファイルの大きさに気を付けて、動画についてはYoutubeを活用するなどしたい。さらに配布資料についても、受講生に不都合がないようにしていきたい。対面時には行っていた小テストがなくなったことで復習しなくなってしまったという声もあったので、オンデマンドでも小テストを加えるようにしてみたい。

今年度はオンデマンド講義ということで、音声付きPowerPointを作成した。対面講義で行う場合よりも1回分の内容を少し減らし、ゆっくり進めるようにした。講義内容と関連した実践例などを準備し、講義の節目で動画をストップして資料を読ませたり、問いを設定して考えさせたりする工夫を行った。掲示板等で紙面討論を行うこともできるが、PC上の作業が増えるるとどうしても思考が拡散すると思い、なるべく講義の流れの中で考えてもらう課題を提示した。アンケートの自由記述には、課題や授業感想をじっくり考えることができたことや、音声付きPowerPointを何度も見直すことができ理解が深めやすかったとの記述が複数あった。他方、わずかではあるが、音声の一部途切れなどもあったようで、こうしたミスを確認することも重要だと感じた(ただ、日々、授業のコンテンツづくりに追われた前期であったため、一つ一つの講義を録音したあとで、一通り聞き直して確認する時間的余裕もなかった)。

今年度は遠隔授業であったため、資料を学びネット上に載せるだけでなく、守秘の必要な資料等は郵送するなどして対応を行った。来年度以降、授業後にQ&Aを受け付けてフィードバックすることも考えていきたいと思えます。

Google Formを使うなど、リアルタイムで学生の意見を収集し、シェアリングすることで双方向性のある授業を心掛けている。アンケート結果については回収率がそれほど高くなかったため、学生の授業に対するモチベーションもそれほど高くなかったことが推測されるため、モチベーションを上げるための方策を授業に反映できるよう改善していく。

特になし。アンケート項目からも、何を得ていいのかわからない。今年は特に回答者も少ないし。

オンラインであっても演習などの授業では学生の発言を促すなど参加型になるように工夫した。しかし、資料のアップロードが上手いできないことや提出ボックスの作成漏れなどもあり、今後は気を付けていきたいと思う。

令和2年度前期の授業はすべてオンデマンド形式で実施した。対面での授業では前回の授業で提出されたリアクションペーパーのうち数人のものを次の授業の冒頭に口頭で紹介する(あるいはプリントして配布する)だけだったが、まなびネットでは全員からのコメントを表示でき、学生が相互に読み合うことができる点はよかった。学生からの授業アンケートにもその旨の記述が多かった。また、教員からのフィードバックが励みになるという意見も見られた。他方、フィードバックを文章で記述するにはかなり時間を取られた。授業の準備のなかの何に力を注ぐのか、またそれが学生の育ちにどのようにつながるのか、引き続き考えながら臨みたい。

・アンケート結果を受けての改善点

ほとんどの学生が自宅において学習していることを考慮し、発展的な学習(例えば関連文献の紹介など)を課すことを控えていたが、そのために深い学びをさせることができなかったと思う。

まなびネットの音声付きパワーポイントが一時停止することがあったという指摘については対応方法を検討したい。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から全面的に遠隔授業となりました。受講生のみなさんはもちろんのこと、私共授業担当者もおおくの戸惑いの中、試行錯誤を重ねてのオンデマンド型オンライン授業を全15回実施しました。受講生の方々からの受講感想コメントを読ませていただくと、皆さんがいかにこの混乱を、双方寄り添いながら乗り切ってきたことがわかりました。第一に受講生のみなさんへの授業への協力と理解に感謝したいと思います。来年以降も遠隔授業が継続されるようであれば、なんとかハイブリッド型または反転授業などのあたらしい授業方法を導入して、みなさんが希望しているようなアクティブラーニングができる環境作りを工夫していきたく思います。また、もう少し「音声付スライドを増やして欲しい」という要望が数名の受講生から寄せられていました。秋以降の後期授業では意識して音声スライドを配信しました。それにより未来に開かれた高等教育の授業形態を構築し、受講生のみなさんにより学びやすい環境とコンテンツ作りを目指していきたくと思っています。

本年度はオンデマンドとライブ式の併用によるオンライン授業であったため、講義内容や授業方法など、難しい点があったものと思われるが、通信制大学等の取り組みをもとにした授業形態であることから、次年度もオンラインであった場合は、大きな方向性などについては変更をせずに実施して問題がないものと思われる。他方、内容面については、実践につながる理論研究などの最先端の情報を取り入れるとともに、今日関心がいただけるような内容も盛り込むなど、授業改善をはかっていきたい。また、今日的な動向と照らし合わせて、使用教材や授業方法など、学生のキャリア教育に対する理解が深まるように今後も工夫をはかる所存である。

複数の先生方との共同の授業ですので、独自に工夫したことはありません。今年度は全授業がオンライン授業となり、学生には大変不自由な思いをさせていたと感じましたが、アンケートを拝見すると、「自分のペースでできた」「わからないところを何度も動画で確認出来てよかった」などの意見もあり、オンライン授業の良い点も感じました。Teamsを使用した授業のため、学生は当初は戸惑いもあるようでしたが、授業数を重ねるうちに慣れてきたようでした。

1.アンケート結果の整理

全部で16の自由記述が寄せられた。そのうちの14記述が改善点の要望だった。回答しなかった受講者も改善を望んでいると受け止め、自由記述の声を真摯に受け止めたい。

2-1.改善点①:フィードバックについて

後期になって前期に積み上げてきた授業内容を少しずつ改善し、評点を必ず返すようにしている。翌週のアナウンスに模範解答や評価ポイントの解説を加えている。しかし、アンケートの自由記述を読んで不十分さを痛感し、上記改善点に加えてさらに、全ての受講生の課題に対してできる限りのコメントを送るようにしている。

2-2.改善点②:資料の量と示し方について

提供する資料の厚みを軽減するようにしたい。

2-3.改善点③:レポートの文字数について

受講生の負担を考えて、レポートは常にA4用紙1頁(約1600字)を超えないように指示してきた。1600字をある程度の目安として示し、書ける受講生には自由に量を決められるように指示を改善する。

2-4.改善点④:レポート課題の量について

読ませる資料を減じ、1600字という文字数の制限を撤廃することにより、「意見記述」へのハードルを下げたい。

・提出課題の解答を紹介するようにして、ほかの受講生の考えを知ることができるようにした。また、互いに意見交換できるような機会を作った。

・なるべく、映像で実際の幼児の姿から学ぶことができるようにした。映像によっては、使用日時を短めに設定することを求められるものもあったので大変だったが、理解は深まったかと思う。

工夫している点

学生の意見を広く共有するために、コメントシートに記載された質問やコメントを次回授業の冒頭で解答・紹介している点。また、被教育者としての視点から授業者としての視点へと転換させることを目指して、授業記録を用いて子どもの内面を洞察させる取り組みを行なっている点。

アンケートを受けての改善点

授業で扱う内容が重い(スライドの枚数が多い)という意見があったので内容を精査して減らしていきたい。模擬授業は対面がよかったという要望があったので、状況次第であるが来期は模擬授業の時間に関しては対面で実施したい。コメントシートの提出をまなびネット上のオンラインテキストで実施していたが、記述している最中にデータが飛んでしまったという声があったので、事前に別の媒体に記入してから転記するよう呼びかけたい。

アンケートに回答してくださった方が少なく、この結果をすべてとらえてはいけなと考えています。パソコンに弱く、通信環境を十分に整えられなかったこともあり、すべて学びネットを使って授業を行いました。対面授業とはかなり違い、同時双方向型の授業展開をすることができず、もどかしさもありました。課題を学びネットに置いて、それぞれ取り組んでもらう方法は、デメリットもありましたが、学生側・教員側どちらもそれぞれのできる時間に取り組める、時間の融通が利くといった利点もありました。例年であれば、実習中は授業に参加できない学生も、授業に参加(課題に取り組む)することができたと思います。今後も遠隔授業の機会があるならば、Zoomであれば何とか授業をする方法が分かったので、Zoomを使って同時双方向型の授業も組み込みたいです。

15回の授業すべてオンライン実施した。始めは課題の提出が遅れる学生もいたが、慣れてくると期限までに提出もそうようようになってきた。アンケート結果でもおおむねの学生が計画的に受講できたであった。なるべく同じような授業展開、課題の提出方法で混乱のないように作成するように心がけた。実技の指導ができなかったことが、学生からも残念がる意見があった。別の授業で経験できたと思う。また、動画の視聴や撮影などは、対面授業ではできないことにも挑戦できたことはよかったことだと思う。

今年度オンデマンド型授業になったが、音声付きの動画とGoogleフォームを使った課題を毎回出すことで、受講生の意欲を保ったまま授業することができたと思う。授業中参考文献は複数提示していたものの、図書館に行くことが難しかったことも考えると、関連論文のpdfをアップロードできればよりよかったと考える。課題としては、全く動画を見ていない学生もいたと考えられることである。もし、今後オンデマンド型で授業する場合は、できるだけ動画を見ないと回答できないような課題を作成したい。

事例や理論のどちらかに偏った内容ではなく、事例を理論的に見るとどのようになるか、理論に関連する事例がどのようなものであるのか、という繋がりを重視した授業を展開できるよう工夫しています。

初めてのオンライン授業であったがteamsを用いて、できるだけ対面に近いようになるように意識した。また、疑問にはその場で解消できるようにした。メールでの問い合わせも随時対応した。講義部分は録画を行いstreamingにもアップして、欠席や再理解に活用できるようにした。実験科目であったので、対面に近い形で体験ができるように、実験計画内容をteams内で紹介しあったり、学生さん同士でディスカッションしたりできるようにグループワークを取り入れた。相互観察実験を動画観察に変えるなど、工夫はしたつもりであったが、最終課題については、学生さんに負担をかけた部分があったようで、今後課題提示の仕方を工夫したい。オンライン授業での時間配分は、試行錯誤で行ったところがあり、負担があったところもあったと考える。経験を重ねてわかったこともある。今後授業を行う場合には、時間的余裕を勘案して授業計画を考えたい。同様に課題の量についても再考したい。

授業で使用するパワーポイントを配信用に作成しなおし、録音して動画配信した。初めての対応だったので、学生にレポート内でもオンデマンドで改善して欲しい点を書いてもらい、途中で改善しながら行った。パワーポイント+音声だと巻き戻しができないと指摘を受け、動画に変換するようになってから、視聴しやすくなったと思われる(が、作業に時間がかかる)。来年度は意見交換をしながら行いたいと思うが、まなびネット内での意見交換の仕方がよくわからない。

今期はオンデマンド型の授業だったので、1冊のテキストを使用し、要約しながら筆者の考えを正確に読み取り、それに対してさらに自分の考えを主張する一連の流れを意識して取り組んだ。その中で、自ら問題点について調べたり、インタビュー調査をしてもらう時間も設けた。

アンケート結果は、「問1」は30%が「強くそう思う」、70%「そう思う」、「問2」は、20%が「強くそう思う」、70%が「そう思う」、10%が「どちらともいえない」という結果という結果で、「じっくりと集中してテキストを読み、自分の考えを深めることができたと思う。」の自由記述の回答もあったため、しっかりと学生にもその意図が伝わり、取り組んでくれたと考えている。改善点としては、「自分の予定に合わせて課題に取り組める。」「オンデマンド型は時間に拘束されないため、就活に影響がでないところがいいとおもった」という自由記述の回答があったものの、独自に行ったアンケート調査では、「早い時期から課題を公開するなどして頂ければありがたい」との声もあったため、課題の締切については学生が余裕を持って課題に取り組めるように改善したい。

工夫している点

福祉を他人事ではなく、自分の生活レベルとしてとらえられるように学校での一般的な事例を紹介した。事例を使って説明することで、理解しやすいようにした。初回の事例は、イメージしやすいように映像を利用した。講義での興味を深めるために絵本等身近な参考文献を紹介した。参考文献、資料は、比較的一般的なものを紹介し、自分で取り寄せやすいものを選択した。

改善点

事例の理解だけでなく、知識としての用語の説明を丁寧にする。
質問を個別のメールで受け付ける。
課題について、他の学生の意見がわかるように提示する。

受講者の負担軽減のために、出欠確認のための毎回の課題はできる限り簡素なものにした。今学校で起きている具体的な事例について提示し、実践的な学びとなるように工夫した。

15回の授業の中で、15回の課題を課して、提出させている。その課題に対してこちらからコメントをつけて返すと共に、次の授業(それ以後の授業)で課題の内容を取り上げ、さらに学びが深まるようにしたり、さらにその内容自体を課題として、主体的で協同的な学びができるようにした。
パワーポイントで授業データを示しているが、多くの学生の中にはこちらの意図が十分に伝わっていない場面もあった。表現の方法を精査し、意図が十分に伝わるように内容を改善する必要を感じ、後期の授業に生かしている。

今年度は尋常ならざる状況下での実施となり、特に前期は手探り状態で開講せざるを得ない状況であったが、教科書を指定してあったこともあり、これを軸に授業展開させることができた。資料や文字投稿を中心とせざるを得ない状況であり、対面・口頭での解説ができないもどかしさはあったが、教室では実現しにくい受講生の能動的な学びが必然となる学習環境という意味では、結果的に学生の学びを深めた利点もあったように感じる。
遠隔授業としての改善点としては、配信システム上の工夫が必要になるところだが、講師と学生間のインタラクションのみならず、学生間のインタラクションを実現させることも課題だと感じている。特にフォーマルな対話ばかりでなく、雑談的な交流がしやすい環境設定ができれば理想的だと感じる。これは少人数の演習であっても遠隔授業では(対面授業でも)難しい側面はあるが(結局は学生の自発性に依存するので)、可能な範囲で環境を調整できればと願っている。その他、遠隔システムならではの利便性を活かせるところがまだまだあるはずなので、対面授業に移行した際にも併用しながら活用したいと考えている。

○授業の工夫点

- 1 コロナ感染予防のガイドラインを作成し、施設でのイベント実施と実習の実施の両立をした。
- 2 イベントでの活動ブース定員を設定し、部屋の定員の半分までにし、イベント参加人数も減らして実行した。
- 3 学生に毎日その日の活動のふりかえりをさせ、授業の整理をさせている。そのふりかえりをもとにして、次の日の補足または進行を調整してきた。
- 4 授業日の連続をできるだけおさえ、学生自身が、また学生同士が考える時間をあたえている。
- 5 最後のまとめには、必ず参加者アンケートの集計とイベントでのスライドでフィードバックし実習の整理をおこなっている。

○改善点

- 1 文字だけでの説明の場面があったようなので、事例をもとにした説明資料(写真・動画)を用意したい。
- 2 自分で調べる課題をだし、発表し合って作り上げていく形式の部分を作成したい。

授業後に寄せられた学生からの質問に対し、次回の授業でできるだけ回答するように心がけ、全員に伝えて一緒に考えられるように工夫した。対面では質問しにくい些細な問題も気軽に自分の言葉で質問できることにつながり、学生にとっては良かったようである。

一方、これを取り入れるためにはある程度の授業準備時間が必要になり、1回当たりの授業資料作成に通常6時間程度は要した。学生からの回答期間もある程度の長さを設定したいと考え、どうしても準備時間に余裕がなくなってしまう。今後はこの点についてスケジュールを工夫していきたい。また、オンデマンドでは資料配布をしにくかったり、良いビデオを見せられなかったりしたので、学生の理解をより深めるために、対面授業も並行して実施したい。

動画の音声については、字幕を付けるなど、聞き取りにくい人にも対応できるようにしたい。

オンデマンド授業に対応すべく、相当の労力を注ぎ込んで前期授業の教材作りに取り組んだが、対面授業でなら苦も無くできるレベルの教授が、代替の方法では到達出来なかった、と言わざるを得ない。
対面授業の為にキャンパスに通学してくることで双方共に得られる学習の機会が貴重なのだ、と改めて思われた。
代替授業での工夫を、個人レベルの努力ではなく、大学の共通規格として提供できるようにしていく必要がある。

令和2年度の前期授業では、大人数のためオンデマンドで資料提示をした授業と少人数でのオンラインで行なった授業とでは、学生からの評価に差があった。学生からの記述では、課題へのフィードバックに対する意見が多く見られた。30人規模までの少人数の科目では、Zoomを使ったオンライン授業を行ない、普段は呼べないような外部のゲストスピーカーの授業参加やブレイクアウトルームを使ったグループワークを行うなど、Zoomの機能を活かした授業づくりを心掛けた。一方で、大人数のオンデマンドでの授業では、音声を入れたビデオ配信以外に大した工夫もできず、出欠確認のための課題提出に大きな負担があったことは反省点である。また、特にオンデマンドの授業でのフィードバックについては課題があったことから、次の授業の最初に課題についてのフィードバックを入れるなどの改善を行ないたい。学生から、教育大学なのにオンラインでの授業も行なえないのかとの意見はかなり堪える。通信環境の整備がのぞまれる。

1) 授業方法について独自に工夫していること

・今年度は、初めての遠隔授業ということで、学生に過度な負担がかからないよう留意しました。とくに1年生の科目であるため、大学での学び方やレポートの書き方、まなびネットの使い方などの基本的なことも含めて扱いました。

・遠隔授業教材としてさまざまなものがあることは知っていましたが、これまでもまなびネットを使って講義を10年ほどしてきましたので、操作には慣れていました。しかし、動画教材は学生にとって必ずしもわかりやすいものではないと考え、講義録という形で文字で読むこともできますし、読み上げが必要な場合はパソコンの機能で読み上げることもできる教材を作成しました。

2) 改善点

・遠隔授業前からの課題が、依然として変わっていないことを反省しています。それは、問2について、「あまりそう思わない」学生が一定数いることです。次年度は、この点をもう少し意識して授業改善に取り組みたいと思います。

初めてのオンライン講義となり、行き届かないところがあったと思うが、学生からの連絡や相談には可及的速やかに対応した。学生側のオンライン環境が不明のため、最低限の環境でも課題が取り組めるように配慮した。その反面、オンラインならではの音声や映像の使用を控えたため、学生の理解の助けになれたかは不安が残る。

①工夫した点

学生が大学の図書館等を利用できない期間があった。復習・自習時にアクセスしやすいように、参考文献は、ネット上で入手できる文献・資料を中心に提示した。

②アンケート結果を受けての改善点

アンケート結果から、本授業では特に「学生が自分で問題点を深く考え、その考えに基づき行動すること」に対して課題が残った。

まず、学生によっては授業内容の理解が不十分で、問題点を深く考えるところに至らなかった可能性がある。授業内容の理解が進むように、内容自体を見直すとともに、スライドでの文章表現等について改善を行いたい。質疑応答の機会を設けることも気を付けたい。

また、自らの考えを検討する機会が不足しており、学生によっては行動に移すほどの考えを得ることができなかった可能性もある。自らの考えや行動の妥当性をはかるためには、例えば、他の学生の考えに触れる機会が必要である。学生間で、安心して意見を交流できる場を設けることを改善点としたい。加えて、考え方自体へのフィードバックも必要である。提出物にレスポンスするなど、工夫を図りたい。

初回の講義で、授業についての要望等を学生に聞いたところ、「教科書的な理論ばかりではなく現場を知りたい」、「他の学生の意見も聞きたい」という声があったため、毎回講義の初めにはその前の回の講義の感想を取り上げてコメントするようにした。また、教員ではない立場から見た学校についても伝えるようにした。アンケートを見ると1名のみではあるが、先生に質問できなかったことが良くなかったこととして挙げられており、私としては質問も受け付けているというメッセージを送ってきたつもりではあったが、そのように理解していなかった学生もいたことが分かった。今後は、より気軽に質問できるように、質問も受け付けていることを繰り返し伝えていきたいと思った。

今年度は、遠隔ツールを通じた非対面授業となり、手探りの状態が続き、ほとんどの学生とコミュニケーションが不十分なままだった。しかしオンデマンド式の良い点も感じた。多くの資料を提示し文献を読み込むよう指示することで、自主的に学習する力がついてきている学生が多いと感じた。レポートの内容も、ほとんどの受講生がこちらの意図をある程度理解していると感じることができた。授業アンケートの結果を受けて、今後は以下のように授業を改善していく予定である。第一に、個別の質問には全て回答したが、レポート添削やフィードバックの点では不十分だったようなので、今後はしっかりとフィードバックを行っていききたい。第二に、学生同士の交流の少なさへの指摘に応じ、今後はなるべく、学生が他の学生の意見を確認できるような仕組みづくりを心がけたい。

講義科目については以前からweb講義と演習問題を通じた理解を目的とした反転授業を行っていたので、遠隔授業でも同様の方法をとった。評価は例年と似ていたもので、次年度も踏襲する予定である。web授業は受信側の環境に大きく依存するので公的な支援も含めて通信環境の整備を支援できるとよいと考えている。ミニレポートとしてノートチェックを行っているが、教室でチェックするより細かくチェックできるものの非常に時間がかかったので、改善していきたい。

演習系の授業ではディスカッションが必要になるので心配していたが、学生の努力もあって比較的スムーズにおこなうことができた。グループワークによる調べ学習とプレゼン、あるいはディベートも行うことができた。次年度も踏襲したいが、リアルタイム遠隔と対面が共存できないので悩んでいるところ。

演習系の授業で外部見学を中心に組んでいる科目があったが、今年は代替として調べ学習などを中心に行った。いままでの蓄積がないため学生の満足度も低かったので、改善していきたい。次年度も感染症の流行状況が改善する見込みが残念ながらみられないため、抜本的な見直しが必要だと考えている。

今年度は、パソコン操作を覚えることからの出発で、ICTに苦手意識を持つ者にとっては厳しい一年であった。まともな動画を作成することで精一杯であったというのが正直な感想である。

授業の工夫としては、例年対面をお願いしているゲスト講師に動画撮影を依頼し、まなびネットにおいて教材化するなどして、多様な考えを吸収できるようにした。

まなびネットのアナウンス欄に受講者が投稿できるようにし、そこに質問等を受け付け、私が回答することで、双方向化に努めたが、受講者にとって十分なものではなかったかもしれない。

「アンケート結果」を受けてであるが、問1、問2、いずれも、「強くそう思う」および「強くそう思う」「ややそう思う」の合計ともに、専攻科目の平均以上でスコアを示しているため、おおむね好評であったと考えられる。

「課題のフィードバックがほしい」「双方向でないと、授業を受けている気がしない」などの声があったが、これは遠隔授業の限界であると思う。今年作成した動画を来年度も使用できるようなら、動画作成に費やした時間分を、フィードバックに使えるように思う。

わかりやすい授業をするために

- ①視聴覚機器を限られた時間であるが、利用している。
- ②理論と実践の両方をリンクさせている。
- ③資料を配布している。

前期に担当した授業は「英語Ⅰ」と「英語コミュニケーションⅡ」であり、その主な目的は英語の知識と技能の向上である。そのため、アンケートの質問にある「問題点を深く考えたか」という問いに対して恐らく学生は判断しにくいと思われる。判断しにくいのであるから、その結果に対してコメントしても的確な回答になるのか確信が持てない。そこで、以下では、「自由記述」に書かれていた内容に基づいてコメントする。

授業は、教科書を見ていることを前提に、パワーポイントを使って文字と音声（パワーポイントに録音）で解説するという形式で行った。概ね学生の反応は肯定的で、主な記述内容は「何度も音声を聴くことができてよかった」、「自分のペースで授業を進めることができてよかった」、「課題の量が適度であった」、「パワーポイントの内容がわかりやすかった」などであった。ただし、「音声がたまに聴きづらかった」という否定的な記述もあった。前期は終了しているのでもはや仕方がないが、後期は音声をパワーポイントに録音するという方法を止め、音声編集ソフトを使って編集した音声をパワーポイントに載せるという方法を採用した。そのため、後期はこの不満が大幅に改善されると予想される。

今年度の前期は、オンラインでの対応になり、従来と違う方式での実施となった。独自の工夫は特に意識はなく、オンラインでの実施に伴う機器への対応や、授業で提示する資料の作成など何とか対応していくことに精一杯であり、できるだけ目の前のことを進めていく感じであった。

ただ、学生からの評価としては、そのような状況ではあっても比較的良好であり、ひとまず一定の対応はできたと受け止めても良いのかと考える。

今年度、一応の対応ができたので、次年度は、教材の工夫や実施の在り方など、今少し深められればと考える。

①Ss

聾学校で教育実習を行う学生を対象にした、手話を使った授業であるので、オンラインでの対応はできず、6月中旬以降の申請による対面授業が可能になったところで、2コマ続き(5限・6限)で実施した。

学生にとっては手話を覚えるだけでなく、手話を使って授業をするという意味で負担が大きいと思われるが、実際の授業がイメージでき、教育実習への不安が少し解消されたという感想も得た。教育現場では、手話を使うだけでなく、手話を使った教科指導や言語指導のスキルを高めることが求められている。前期教育実習より前にこの授業内容を実施したいので、今後は時期の検討(実習前に集中的に開催)や授業内容の前倒し(3年後期 手話の基礎)を検討する必要があると考えている。

②Ss

この授業はほとんどすべてをオンライン(オンデマンドの教材配信)で行った。

・「必ずフィードバックがあるので理解が深まった、振り返りにつながった、資料に真摯に向き合った」などの回答については、毎授業の課題に真摯に向き合う学生に対する当たり前の対応として、必ずフィードバックすることに心がけ、資料を配信するだけという一方通行ではなく、学生とのやり取りに努めた。

・「大切な内容であるが、資料を読み進めるには少し量が多い」については、聴覚障害学生も受講していたので、情報保障として文字量を多くすること、他の学生においても資料を見て、学習内容の振り返りができることに心がけたことが、結果として資料の多さにつながったと分析する。

今後の対面授業でも、手話を使いながら、文字情報の提供と合わせて理解を深めていきたい。

授業については、今年度急にオンデマンドの授業を準備することになり、学生の方にも多く戸惑いの声が聞かれたように思う。このオムニバスの授業も、担当者が集まって話し合っただけでやり方を検討するというのが難しかったため、それぞれで工夫することになり、やり方が多様になって学生にも負担をかけたように思う。とはいえ、それぞれの分野についてそれぞれのやり方があり、その特徴をそれぞれ体験することができたことについては、よかったと考える。そうしたことについて十分学生のあらかじめ情報を知悉しておけば、もう少し混乱なく受講できたと思う。その点についてはこれからの課題と考える。

●令和2年度前期の学内における実習科目は、新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から必要最低限の対面授業による実習と遠隔授業で実施した。

改善点としては、手指消毒、マスク着用、体調管理、小人数等の感染防止に十分配慮して、対面授業による実習時間を増やしたい。

●令和2年度前期の学外における実習科目は、実習施設の受け入れ状況に応じて臨地実習と学内演習で実施した。

改善点としては、臨地実習が実施できない場合は、Teams等を利用したりリモート講義を実習施設に依頼して指導いただけるようにしたい。

工夫している点

毎授業時に提出させる小課題に、質問欄と意見・感想欄を作り、質問には必ず回答し、意見感想は次回からの授業でフィードバックしていた。

改善点・問題点

受講者からの声の中に「声が動画の音声が入り切れていることが多かった」ので、授業内容が理解できない時が多かった」というものがある。学生によっては配信がうまくいっていない場合があり、これらは現象があったらすぐに学生から学びネットに、その情報が上がり、対応してあげるようにしてあげなくては受講生がかわいそうだ。

コロナ禍の休校明けに実施された学部2回生向けの共通科目であり、学生・大学事務室ともに運営上多くの混乱が予想され、実際に受講学生からは個人宛メールに多くの質問や要望が寄せられた。不安の大きい状態であった受講学生に対して、大学事務室・上席教員と緊密に連絡を取りながら、質問や要望に対しては逐次時間を空けず個別でのコミュニケーションを実施した。結果として、大きな混乱なく無事終えることができた。

しかしながら、授業アンケート結果からは、オンデマンド配信の講義に対して、多くの不満が寄せられた。例えば、①レポート課題が多すぎる、②リレー講義においてある講師と別の講師とで話す内容がかなり重複している、③事前配布のパワーポイント資料と配信授業の中身が全く同じならわざわざ視聴する価値を感じない、等々でした。

これらの不満は、オンデマンド形式だから起きたものというよりは、対面授業であっても少なからず起きる問題だと思われる。それでも今回こういった不満がかなり多く出たのは、授業形式に関する説明の時間・機会が充分ではなく、受講生の側が大学の発信に対して完全に受け身であったことに対する構造的な不満に由来するものだという実感を持ちます。

受講生の側も、講義と一緒に構築する協働参加者という視点を運営側が持つことで、満足度はいくらかでも向上するというのが個人的な見解です。

ネットにつながっていることを利用して、ネット上の心理テスト等を実際に受けてもらうようにURLでハイパーリンクし有益な他サイトに誘導できたことは、各受講生が全員ネット接続しているからこそできることであった。対面授業の通常教室ではそこまでの実体験、主体的能動的参加をしてもらうことはできなかったと思われる。

パワーポイントに音声を入力し、図、表、イラストなどをスライドに載せ、視覚と聴覚に訴える教材を提供できたこともあり、それらを自分の好きな時間に何度でも学習できることが利点であるとして、学生さんからの記述があった。これらのスライドは、私の場合は通常授業でも使用していたため急遽遠隔授業になっても使用できたが、常日頃からこれらのデジタル教材を使用していなかったならば、時間的に準備が間に合わないと思われた。動画などの視聴覚教材も対面通常授業にて使用していたため、遠隔授業にも活用でき、この点も受講学生さんには好評であった。

全課題を各学生ごと一括してダウンロードできると、時間的にも労力的にも、そして各学生さんの学びの推移一覧としても良いのであるが、moodleの性質として各課題がバラバラになってしまうのは、時間や労力が多大にかかり、また、各学生さんのポートフォリオづくりにも困難を極める。Teamsは各学生さんの提出物の一括ダウンロードができるため、moodleにもこの機能があるとよりよいと思った。

1クラスの受講人数が多いと、毎回の提出物などに対する各受講学生さんに対してフィードバックが難しいと思った。

対象授業 L

- ・アンケート結果を見て、事前学習の定着が低い点について改善していきたいと思う。
- ・今年度はコロナ禍のなかで大人数の受講生となる当該科目はゲストティーチャーによるビデオ映像のオンデマンド講義となったこともあり、受講生の士気を一定に保つことが難しかったことが要因として考えられる。

対象授業 MS

- ・15回講義のうち何度かをオンラインのライブチャット形式にしたりするなどして、モチベーションが一定保たれるような工夫を行った。
- ・あまり事前学習を要求するような講義形式ではなかったため、回答結果は想定したものだだった。

対象授業 MS

- ・実験形式を行う講義だが、オンデマンド配信のやり方をとっており、かなり製作に手間取ったが、グループプレゼンテーションをさせるなどの工夫を行った。
- ・より事前学習による意識アップを目指す内容にしたほうがベターかと結果を見て思った。

対象授業 `MS

・オンライン形式のなかで、学生の疑問に即座に対応することがむしろうまくいったように思う。

対象授業 `MS

・個々人の主体的学習をうながせるように講義の流れを組み立てたつもりでいたが、結果からはあまり反映されたとは思えないのでますます創意工夫をこらして実施したいと思う。

自己紹介の回では、動画をできるだけ楽しく見て頂けるように、また動画の編集によって驚いて頂けるようにも工夫しました。またみなさんが見ることができなかった大学の春の風景も見て頂けるように、動画の中に盛り込みました。課題を出させて頂いた回では、これからの幼児教育の授業のために知っておいて頂きたい内容を盛り込ませて頂いて、各自で調べたりまとめたりして頂きました。アンケートを拝見させて頂きますと、大学のことを知って頂くことで、不安が軽減されたということを書いて頂いていましたが、対面で直接いろんな話ができればという意見もありました。やはり対面に勝るものはないと思います。早く通常どおりの授業ができればと思っています。そのときを楽しみにしています。

毎回完結できるように内容を厳選したことと、できるだけ楽しく製作できるように動画を編集した点が、独自に工夫した点です。その工夫した点を理解して頂いて、動画が丁寧でとても分かりやすかった、編集も面白かった、質が保証された授業であったという好意的な意見を頂いた一方で、対面授業であったならばもっと多くのアドバイスを頂くことができたのではないかと、同じ授業を受けている人とアイデアを出し合うことができたのではないかと意見を頂きました。確かに私自身もそのように思いますので、今後は、途中でお互いに作品を見合うことができる機会を設けてみたいと思います。

毎回完結できるように内容を厳選したことと、できるだけ楽しく製作できるように動画を編集した点が、独自に工夫した点です。その工夫した点を理解して頂いて、自分のペースで楽しく取り組むことができた、遠隔授業では時間に制限がなかったので焦らずにできてよかった、何度も見直すことで理解が深まったとの好意的な意見が多かったように思います。一方で、写真による課題提出となった点については、しっかりと実物を見て評価して欲しかったとの意見があったので、今後はできれば実物を提出して頂くことも考えていきたいと思いました。

毎回完結できるように内容を厳選したことと、できるだけ楽しく製作できるように動画を編集した点が、独自に工夫した点です。その工夫した点を理解して頂いて、動画がYouTube上に上がっていて、たくさん見られるのがよかった、YouTubeみたいにはっと場面が変わったり手元を見ることができたり楽しく受けられました、動画の授業は見返すことができるので遠隔授業のいい点かなと思いました、資料をより深く読み込むことができたと思う、動画も面白く自分のペースで取り組むこともよかったなど、好意的な意見を数多く書いて頂くことができた。一方で、本来の対面授業で行う予定であった木材加工用機械で木を切ったり削ったりする制作ができなかったことを残念であるという意見も幾つか書かれていたことから、今後はできれば本来の授業の内容を実施できればと思います。

授業を後期に延期し、そして、今後実施する予定です。

ゼミの少人数の授業であり、またアンケートに1名しか回答していないことから、特に記載できることはございません。

授業形態:すべてオンデマンド

改善点等:今期の授業はすべてオンデマンド形式で行なったのだが、アンケート結果を見ると、オンデマンド形式であることに対する否定的なコメントが案外少なく、逆に「自分に都合のいい時間に受講できるので良かった」「理解できるまで何度も繰り返し見られるので良かった」という高評価が多かったことは、やや意外でもあり、また学生のニーズを知ることが出来たという意味では有意義であった。

これを今後活かすとすれば、例えば対面授業とオンデマンドをミックスさせ、それぞれの授業形態の良いところと悪いところを補完し合うようにすることが考えられる。これについては早速、来年度の授業で試してみたい。

またオンデマンド授業の中身を比べると、何等かの形で音声や映像が含まれているものの評価が高く、文字情報だけのものの評価が少し低いことが明らかになった。この点に関しては、今後、改善していきたい。

今回は、すべてリモート授業へのアンケート回答であった。

肯定的な意見としては、「いつでもメールでの質問や悩みに答えてくれた」

「自分のペースで課題に取り組めた」

否定的な意見としては、「音声があれば安心するのだが」

というものだった。

私自身、とくに前期は、リモート授業の方法が分からないなかでの手探り状態で、学生にも不利益を被らせたかと思う。半面、普段の授業では、「あとは家で読んでおいてください」と時間切れになって読み切ることができなかった資料など、学生にぜひ読んでほしいと思っていた文献(の一部)が、それぞれの授業で読んでもらったことはよかった。実際に、提出されるレポートの質が、昨年度以前のものとは、各段に上がっていた。

これからリモート授業を行う場合には、さらに、「学習の目的」を明らかにし、あくまでも内容に沿った簡潔な音声を入れることで、学生への安心感を醸成したい。授業レジュメや資料に関しては、常々、改良を重ねているので、今後も続けていく。

授業方法については、履修学生が理解しやすいような内容説明に心掛けつつ通常の講義形式で進めている。ICTの活用は不得手であるが、今回の新型コロナへの対応から止む無くどうにかこうにかオンラインでの授業を行うことができるようになった。前期科目では、とくに卒業論文の指導において新型コロナによる対面授業の制限という特殊事情もあり当初から個別指導を中心に進めたが、自由記述にあるように集まることで学習意欲につながる面が確かにあると思われるので次回からはオンラインではあっても集団指導の場を多く持つようにしたい。

今回、私自身が実施した主なオンライン授業の形式は以下のようです。

①(1年)

・大学の講義を受けた経験もなく、かつお互いに顔も見ただけの関係なので、できるだけリアルに近い講義を体験してもらおうと考えた。

・50分～70分程度の講義動画を配信した。(講義室で、1人でパワーポイントなどを使った授業を実施、VTR撮影、その後、動画編集、YouTube限定公開で配信)

・毎時間、資料をアップし、学生が印刷してノートとして使用する。

・フィードバック機能を利用してリアクションペーパーとして、簡単な問題、感想を提出させた。リアクションの内容は全員分をまとめ公開した。

・最終授業は、Zoomでディスカッションとした。

②(4年)

・採用試験対策を中心に考え、各テーマに対して、問題出題解答作成(課題ファイル機能)―解答と解説(音声付きパワーポイント動画の配信)&リアクションペーパーの返信(フィードバック機能)の2回分をワンセットにしてアップした。リアクションの内容は全員分をまとめて公開した。

③(1年)

・少しでも大学の雰囲気を感じてもらうことを目的とした。

・学内施設などの撮影を独自に行いナレーションなどの挿入を含めた動画を作成し、YouTube限定公開で配信。

・全教員の自己紹介プレゼンテーション動画をYouTube限定公開で配信。

・Zoomで学生同士の自己紹介と談話。

学生の多くは、毎回の課題提出にあたり、参考図書や自身の実習などの活動を振り返り持論を展開していた。コロナ禍の中で、可能な情報を集め、うまくまとめられたレポートが多くあった。しかし、中には、単に感想を述べているレポートもあり、私の課題が漠然としているからであったかもしれないと反省している。次年度は、課題提示にあたり、時には焦点化した課題にするなどメリハリのある提示ができればと考えている。

また、オンライン授業で、学生同士が意見交換する場がなく、動画視聴に終わった。学生の中には、感想として、意見交換できる場をつくってほしいという要望もあった。今後は、リアルタイムでの講義ができればよいが、無理な場合は、学生の意見をまとめて次回の講義の中で紹介するなど、「動画を視聴した」だけには終わらないような工夫をしていきたい。

BS

回答率69.9%と高く、その中でも問1「強くそう思う」「ややそう思う」が75%であったことで、講義内容を理解し、問題点を考えることができた受講生が多かったことをうれしく思います。よせられた質問も、講義を受講しながら問題を深く考えていることがわかるものでした。

この授業は教員と支援職(心理)との連携や、お互いの専門性を尊重しつつ且つ発揮しながら、現在の子供たちの抱える問題に対処していくことについての「入門編」の位置づけです。そのため、講義内容のボリュームをおさえ、資料を多く配布し、問題を考えることや視野を広くするための工夫を自分なりにしています。前半は(退屈であったでしょうが)理論、次いで現状を表す調査や数字、そのあと応用として事例、という構成にしました。

音声は入れませんでした。これから「知識を得る・現状を分析する・問題を考える」姿勢を大切にくださることを希望します。

この講義ははじめて担当する授業で使用する資料の検討や準備に時間がかかったこと、受講側の負担軽減のため音声は入れませんでした。入れてほしいという意見もありましたが、受動的になりスライドを止めてメモをとったり資料を見たり考える「間」としての時間は対面では多用しますが、オンデマンド教材は、「間」をあえて作らねばと思っています。

ステイホーム中は子どもが自宅にいて仕事を妨害するため、深夜の作業が多くなり、誤字が多かったことは申し訳ないです。コメントも返したかったのですが、132人分のレポート印刷に数時間かかり読んで授業内で取り入れるのが精一杯でした。申し訳ないです。

MS

回答率が31.2%なので、積極的に授業を受講していた学生のみの回答(40%を下回ると信頼性が下がるはず)ではないかとは思いますが、問1で「強くそう思う」+「ややそう思う」が100%であったことは、正直うれしいです。

急に家での授業準備作業になり余裕がない中、トライアルな側面の強い講義になりましたが、レポートを読むと多くの方の熱心な受講がうかがわれました。

アンケートのように、事例を織り交ぜながら本来はグループワークも入れるかなりアクティブラーニングな設定でありましたので、対面よりも難しい面がいろいろありました。

それでも考えてもらう「時間」を作り出すため、事例を含めた教材を作成し、いろいろな資料も添付しました。

ボリュームがあると小さくなるスライドの字が見にくいとのご指摘もあったので、UDゴシックに統一し、レイアウトは改善したほうが良いと思っています。

L

授業内容はゲスト講師の動画によるオンデマンド授業のため、当方は出席や質問対応などの補助の授業

動画は質が今一つ、機材のよいものを使わないと難しい。もしくはプロの動画の撮影・編集があるほうが、学生の苦情は減ると思う。

画像入りのデータを6分以上見るのは確かに苦痛である(最長70分近いものがあった)。

資料は20枚を超える場合があり、学生によっては印刷しない(できない)だろう。

毎年講師間の内容重複が課題に挙げられている。検討の余地がある。

MS

卒論に向けての6人のゼミ授業のうちの2人の回答であって、コメントはしがたい。2人は熱心に受講していることはありがたい。

・今期は遠隔授業だったので、学生が提出したレポートには必ずフィードバックをし、レポートを通してコミュニケーションが図れるよう心がけた。フィードバックに対してコメントを返してくれた学生もいて、そのようなやり取りが個別具体的にできたのは、遠隔授業の利点だったかもしれない。

・学生アンケート問2の結果から、授業で提示したことを受けてさらに調査・思考するということが不十分であったかもしれないと思う。「思考を深める場面」や「問いを生み出す場面」を提示資料(PP)中にもっと組み入れていく必要性を感じた。

・遠隔授業であっても学生同士の交流をさらに深めていくことができたと思う。講義途中で仲間の作成したレポート紹介をした折には、多くの意見が寄せられた。「仲間はどんなことを考えたのか」「自分と似ているのか」「自分とは異なるのか」等、学生の関心が高いと感じた。まなびネットでできることをもっと増やしていきたい。

○実習科目については、遠隔授業のみでは実践的に学びを深めにくいいため、授業内容に応じて遠隔授業と対面授業を実施した。アンケート結果においても、対面授業での学びを実感した記述がみられた。

○授業内容の必要性から新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら対面授業を行ったが、学生の感染症予防に対する意識を高め合う機会となったと思う。一方、通学に対する不安を感じている学生に対しては、オンライン用の課題を設定するようにしたが、授業準備等に関わる負担が大きくなった。

○遠隔授業では、他の授業での課題との重なりから学生の課題に対する負担が大きい様子を感じたので、課題の内容を見直した。また、学生の提出した課題をフィードバックすることによって、前時の授業とのつながりを意識できるように配慮した。

<工夫している点>

視聴を確認するためのレポート課題に取り組むことで、授業内容を復習し要点を押さえることができるようにした。

<改善点>

講義科目のオンデマンド授業はやりにくいと感じていたが、学生の評価としては「自分のペースで学習できる」「課題があるので自然と復習できる」という感想があり、メリットがあることがわかった。一方でレポートが大変という意見もあり、復習しつつも取り組みやすい課題を出すよう工夫したい。

初年次演習では、Teamsの扱いに慣れていないこともあってディスカッションにスムーズに移れないこともあったが、Teamsが次第にZoomのように使いやすくなってきていることや、使い方に習熟してきたこともあり、今後はスムーズに使えると推測する。

①オムニバス授業であったので、2回の授業だったが、オンデマンドの授業を行った。

1回目の授業課題のレポートを2回目の授業で全員がお互いに読んで共有することによって、オンデマンドでも学生が学び合うことができるようにした。

②Teams及びLINEでオンライン授業を行った。毎回の授業の感想を課題として、次回の授業資料として全員がお互いに読んで共有することによって、学生が学び合うことができるようにした。

③実地研修を伴う授業であるため、基本的に対面授業とし、感染防止対策を徹底しつつ、グループワークを取り入れて行った。

可能な限り対面授業を行うように考えている。後期の授業では、まなびネットを活用して授業の感想やテキストを読んだレポートを学生が共有し、授業時間には疑問点や重要事項についての講義とグループワークでの議論を行う形式に取り組んでいる。

授業対象が、専攻科目の4年生4名と、他コース1名の5人と少人数であったこと、全てZOOMを使用した双方向授業であったことなどから、アンケート結果(最高点に集まる)が果たして授業評価実態に即したものであるかは、疑わしい点がある。

しかしながら、コロナ渦という対面授業が実施できない状況においても、対面授業と同じように同時双方向授業を実施したことは、学生に強い満足感を与えることにつながったと判断してよいとも考える。来年度においても、授業体制がどのようになるかまだ判断としない状況であるが、ゼミ形式による授業と各自に事前に課題を振り分け、発表しながら学修内容を深める方策は有効であると考えている。今後もZOOM、本学の学びネットの機能を活用しながら、学修を行えるように授業工夫をしていきたいと考える。

①専門性のある授業においては受講生の満足度も高くそれなりの評価を得られた。日頃より教育養成、学生のキャリアデザインにつながる授業を意識し、なるべく具体的な授業場面を取り上げ、実験の理論化、理論の実践化に努めてきた成果であろう。とは言え、今年は特に前記において新型コロナの影響もあって特にアンケートの対象となっている当該授業において学生を小学校や幼稚園などの現場に連れて行くことはできなかった(後期の授業ではできたのだが)。今後もそのような状況においても、しっかりと将来教職に就いたときの授業づくり、子どもとの関係づくりにつながるより一層の授業構想に努めていく所存である。

②今年度は同じくコロナの問題で事前指導、事後指導において直接学生と触れ合って授業することが叶わなかった(すべて音声データを入れたプレゼン資料によるオンデマンド授業)。これも来年度においても、同じような状況も想定される。どのような形が学生にとって有益かを今の段階で関係機関と連携をして模索していきたい。

慣れないオンライン授業であるため、当初は授業の展開、課題の分量等で戸惑うことがあったが、受講生が少人数のため、リアルタイム型の授業回数を多くし、オンデマンド型の授業を少なくした。また、文献資料だけでなく、パワーポイントの資料、写真、動画等も含めるよう工夫した。アンケート結果から判断すると、概ね目標は達成できたと考えている。しかし、リアルタイム型でもカメラをオフにしていると受講生の反応、理解度等を読み取ることが難しいと感じた。個人のネット環境にも差があり、音声聞き取りにくい、繋がらない等の問題もあった。今後は、オンライン授業でもグループでのディスカッション、個人により調査活動と発表等も採り入れるよう創意工夫したい。

受講生が少人数のため、リアルタイム型のオンライン授業を行った。個人のネット環境により、繋がらないこともあったが、ほぼ予定通り行うことができた。工夫した点は、それぞれの知的関心を高めるよう、個人の探究テーマにそった具体的なアドバイスを行うようにした。アンケート結果から判断すると、目標は概ね達成できたと考える。

慣れないオンライン授業であるため、当初は授業の方法、展開、課題量等で戸惑うことがあった。そして、前期はほぼ全ての授業がオンライン授業となり、受講生の人数が多いとリアルタイム型の授業を実施することが困難であった。また、各授業の課題量が多いと、学生にとっては負担が大きく、学生のアンケート結果にあるように出席確認のための課題だと意味はない。

それゆえ、課題に関しては、教科書だけでなく動画から学んだこと、体験活動や調査活動を行うことを取り入れ、課題量も考慮した。さらに、文献資料だけでなく、パワーポイントの資料、写真、動画等も含めるよう工夫した。また、リアルタイム型の授業も適宜、取り入れた。しかし、個人のネット環境の差を考慮し、オンデマンドでも受講可能として必須とはしなかったので参加者は受講生のほぼ半数であった。

アンケート結果から判断すると、概ね目標は達成できたと考えているが、今後は、オンライン授業でもグループでのディスカッション、課題量を考慮しながら体験活動、調査活動、発表等も採り入れるよう創意工夫したい。

この授業はオンデマンド式で実施した。パワーポイントで作成した動画をまなびネットにアップロードし、学生はそれを各自視聴し、視聴後に課題に解答するという形式をとった。

授業動画の作成にあたっては、画面を通した受講であっても情報が伝わりやすいように、以下の工夫を行った。①スライドの文章を短くシンプルなものに作り替えた。②パワーポイントのマーカー機能を使い、話しながら重要なところに印をつけていった。このほかに、動画を分割して一本当たりの時間を短くする、圧縮ソフトを使用してファイル容量を小さくするなど、オンライン環境でも受講しやすくするための工夫をした。

内容面では、授業内容が受講生にとって理解しやすいものになるように工夫をした。たとえば、受講者にとって身近であったり、受講者が興味を持ちやすい題材を授業の最初に紹介することで、受講者が授業内容にスムーズに入っていけるようにした。

アンケートの自由記述では、音声付きの動画が使用されていたこと、動画が分割して提供されていたことなどが好意的に評価されていたことから、受講しやすさがある程度確保できていたと考える。今後の改善点としては、課題のより有効な活用があげられる。今回は基本的に自宅からの受講であり、図書館などの使用も限られていたことから、インターネットで利用可能な情報を用いた課題を課した。しかし、本来であれば、インターネットに限らず様々な媒体を使用して思考する訓練の機会をつくりたい。今後は大学で提供されているオンラインデータベースなどについてよく把握するように努め、より学習効果の高い課題設定を行いたい。

2020年度前期の授業では、パワーポイントにナレーションをつけた動画の配信(受講者100人以上)と、Teamsによるゼミ(受講者4人以内)を実施した。

動画配信型授業では、授業の内容をもとに「自分で調べた」という学生の回答も多く、動画配信の授業ゆえにネット環境へそのまま移行し探究することが促進されたように思う。授業の課題としてネットに掲載されている論文や動画の閲覧を求めたこともあった。

もっとも工夫したのは、小レポートの提出内容をフィードバックする資料を作り、学生自身がほかの学生の提出内容を読むようにしたことである。また期末レポートは草稿を提出させ、全員に対して教員からの助言するコメントを送付した。自由回答の結果では、双方ともに学生に肯定的に受け止められていた。

オンデマンド授業ではこうしたこまめなフィードバックが求められるが、踏み込んで考えると、より早い段階から学生個人に何らかのメッセージを送ることで、学生から教員に質問するハードルを下げるなどの効果があったのではないかと考えた。

・全授業、オンデマンド型配信という形の授業で、どのような授業にしようかいろいろ考えた。自分が長年、現場で経験してきたことを生かそうと、ほぼすべての授業で授業実践を取り上げての授業を行った。

・授業実践を取り上げることで理論的な内容だけでなく、学生が数年先現場に出て教壇に立って授業をする際に少しでも参考になればという思いで多くの授業実践を取り上げた授業を展開した。

・また、コロナ禍での現在の学校現場の様子や日々の教育実践を行う中で子どもを動かすちょっとした指導技術についても時折触れるように心掛けた。

・オンデマンド型配信での授業であったため、学生の反応を見ながらすすめる授業でなく、一方的にすすめるだけの授業になってしまった。そのため、よくわからないところやもう少し詳しく知りたいといったところなどを学生自身が調べ考えることが、通常の対面式の授業よりも多くなってしまったと思う。学生の負担が大きくなったのではと思う。授業のスタート時からメール等を使って学生と少しでもやり取りをすることを伝え、互いの反応が少しでもわかるような手を打つ必要があると痛感している。

・コロナ禍ではあるが、毎回オンデマンド型配信の授業でなく、何回かは教室で行う対面式授業を行うことも考える必要がある。

1. 独自に工夫した点

今年度前期は、新型コロナウイルス感染症のため、対面式授業から遠隔授業に移行した。遠隔授業の方法は、大きく分けて次の3つの方法を導入し、その回の授業の特徴に合わせてこれらを柔軟に組み合わせて実施した。

- ①オンデマンド授業・音声付きPPTを大学のプラットフォームにアップし、学生の好きな時間に自由に履修することができる(主に「講義」で実施)
- ②オンタイム授業・Zoomを利用し、対面しながら学生と双方向の応答を行う(主に「授業分析」で実施)
- ③オンライン発表会・Zoomを利用し、学生が作成した「探究型地域教材」の動画を、ブレイクアウトルームにおいて少人数のグループを編成し、相互に発表する(「ワークショップ」の発表で実施)

* 各講義の初回の授業では、講師の顔と声を伝えた方が良いと考え、オリエンテーションの内容を口述した動画をYouTubeにアップし、PPTのスライドの中にリンクしたURLを貼ることで対面性を確保した。

* これまでにないオンライン授業のため、授業開始後約1ヶ月後にgoogle formで受講生へのアンケートを実施し、それまでの授業の実施方法についてのフィードバックを得た。また、学生から、他のもあるため授業の課題が多いとのコメントから、課題の提出方法を見直し、google formやチャットによって、簡単に授業コメントを記入・提出できるようにした。

2. アンケート結果を受けて改善点

まず、アンケートの回収率が半分に満たなかったこと、調査項目が少ないことが残念である。二つの問いについて、授業そのものへの評価ではないが、それぞれ授業を踏まえて「自分で問題点を深く考えた」「新たな試行を展開し、その思考に基づいて行動した」と回答した学生が、90%以上であることを頼もしく思う。自由記述からも、ねらいとした進め方が概ね受け入れられたように思われる。

1回の授業に一つの課題を提示し、まず、その課題に対する意見記述を求めた。

一人一人が課題に対して自分の考えをはっきりさせることにより、授業に対してより主体的に臨むことが出来るのではないかと考えた。

提出された意見は整理分析し、内容が重複しないようにできるだけ多くを取り上げて、次回の授業で表示した(課題に対して求める方向とは食い違う意見や、提出方法が間違っている意見は取り上げなかった)。

学生には、一つの課題に対して様々な見方考え方があることに気付き、見識を広げてほしかった。また、自分の考えと比較することにより、考えを深めてほしかった。

一つの課題を自分で考え、他者の考えを知ることにより広げ、深め、最後に自分の考え方を振り返ることにより、解決に結びつけようとした。

アンケートより、遠隔授業であっても学生同士の情報交換はできていることはよかったが、学生と教員とのコミュニケーション不足を感じていることが分かった。今後は、意思疎通の方法を学生の目に留まるように工夫したり、学生への返し方を工夫したりしたい。また、情報交換は文字によるもののみであったが、画像を活用するなどして、よりスムーズで、学ぼうとする意欲を喚起できるものになりたい。

今年度から新規で始まった講義であり、心理的な手法を学んできた学生さんたちを対象に、心理カウンセリングとキャリアカウンセリングの違いを踏まえつつ理論を学んでもらい、また自身のこれからのキャリアデザインも含め、心理職として他者のキャリアデザインをどのように支援していけばよいのか具体的に学んでもらうことを目的に講義を構成していた。

そのため、ゲストによる実演や、相談の実際を伺うとともに、受講者同士でロールプレイをすることを通じて、何をどのように支援していくことが求められるのか、体感してもらう予定だった。

しかし、オンデマンド・オンライン講義に変更になったことにより、実際対面によるロールプレイができない中、どのように進めたら学びが深まるか試行錯誤しながら取り組んだため、受講者のみなさんにはやりづらい部分も多かったのではないかとその点は次年度への反省として生かしていきたい。

また、Teamsを用いてロールプレイを行い、Stremでお互い視聴しあう形をとったが、一部やりづらさを感じていたとのアンケート結果を踏まえ、もう少しリアルタイム講義の進め方を工夫し、オンラインであっても最大限学びが深まる形がどのようなものなのか、改善していきたい。

また、自ら調べたり考えたりしなかった学生もいるようなので、そのあたりへの働きかけなどもさらに検討して取り組んでいきたい。

例年「教育」について学ぶことを目的として入学してきた1年生に対し、学生さんたちがイメージしている「教育」の幅を広げるとともに、これからの長い人生を送っていくために、多様な価値観に触れることを通じて、自分のキャリアを自分でデザインできるような力を身につけてもらうことを目的に講義を計画してきました。

また、本講義は教員養成課程と支援専門職養成課程の学生さんたちが共に学ぶ数少ない講義の一つということも踏まえ、異なるものの見方をする仲間とつながることの大切さも経験を通して学んでいただけるように工夫してきました。

しかし、今年度はこのような状況になり、急遽オンデマンドやオンライン型の講義に転換したことで、各回の内容がどうキャリアデザインにつながるのか十分伝えきれなかった点については、次年度以降改善していきたいと考えています。

また、今年度は入学してそのまま遠隔講義になってしまったため、大学生としてのキャンパスでの生活もなく、また新たな仲間と関係をつくる間もないままオンデマンドでの講義になってしまい、対面時のようにつながりを築くことが難しい環境だったと思うので、次年度以降はオンラインの良さを生かしつつ、これからのキャリアデザインに備えて何を学んでいるのかより伝わるよう、またお互異なる専攻同士でも関係を築くにはどのような形がよいかも、改めて構成しなおしていきたいと思います。

本講義では、例年ゲストを何名かお招きし、できるだけ実際の活動をイメージできるよう工夫して講義を進めてきた。今回はオンライン講義になったためそうした工夫がどこまでできるのか、不安はあったが、講師の先生方のご配慮もあり、例年通り複数のゲスト講師の方にオンライン(リアルタイム)でつながっていただくことができ、普段よりも講師の先生と近い距離でお話を伺うことができた。

課題については、少し多かったとアンケート結果にもあったように、各回の出欠も兼ねて毎回課題を課していたものの、もう少し気軽にその回の学習内容が身に付いたか確認できるようなものにするか、あるいは回数を減らすよう次年度は検討して行っていきたい。

地域におけるキャリア教育の取り組みについて、グループで課題を見つけ企画立案をするという講義を考えていたところ、対面授業ができなくなり、今年度はその学びをどのように保障していくのか教員自身も試行錯誤しながらの取り組みになったため、課題もいくつかあったことは反省点として挙げられる。

学事暦の確認ミスにより補講日を忘れてしまったことや動画の圧縮やアップロードの不具合から時間に配信が間に合わないことがあった点については教員側の準備不足のため次年度以降はもう少し余裕をもって準備を進めていきたい。

また、リアルタイム講義をどの程度どのタイミングで入れるのかについては、シラバス作成時にそうした部分も踏まえ、次年度は年度当初から計画を示すことで学生さんたちの予定が立てやすいよう配慮していきたい。

また、ゲスト講師の方のお話についてはZOOMによるリアルタイム講義に対する反応は良かったことから、次回からも積極的に取り入れていき、学生さんたちの学びのきっかけとしていきたい。

初年次演習では、学科の学生同士で関係をつくることと、オンデマンドの負担をかけすぎないように工夫しながら3名の教員間でもいろいろな検討を重ね講義を実施しました。

資料を読んだり、講義動画を視聴して取り組む課題については、みな熱心に取り組む、またフォーラムを通じた議論に当初はぎこちなさはあったものの、慣れるにつれて深い話し合いができていたと感じました。

今年度は、学生さんたちがどのような環境で課題に取り組むのか、時間割上の時間に接続可能なのかどうなのか手探りで始めたため、うまく参加できない部分もあったようですが、次年度以降は、進め方についてのアナウンスも早めに行い、オンデマンドと対面の良さを生かした形で進められたらと思いました。

講義科目は、オンラインでの実施であったため、動画作成にあたり、時間配分や資料の配置などを工夫した。また、受講生に配信する動画の容量をできるだけ軽くするための工夫も行った。

アンケート結果はおおむねポジティブな反応であったが、グループワークなど考える機会を設けることがあまりできなかったためか、一部ネガティブな反応もみられた。

来年度は、オンラインでの実施になった場合、考える機会の提供に関して工夫する予定である。

今年度はコロナ禍でのオンライン授業の展開になり、学生が自ら主体的に学べるような工夫として、早めに文献検索のサイトの紹介や心理師が活躍している現場の紹介を動画が公開され視聴可能なサイトを参照してもらいながら授業を進めました。

それぞれの学びが深まったというアンケート結果でしたが、オンラインの機器の設定など予め準備段階で学生とやり取りをして、機器やネットの不具合が生じることが少なくなるような、お互いの確認作業が必要だと思いました。

授業につきましては、オンデマンド授業におきましてもできるだけ学生同士のやりとりが生じるように工夫いたしました。例えば、指導案を作成して検討する時間には、まなびネットにおいて学生が作成した指導案をフォルダにアップし、フォーラムでお互いにコメントを打ち合えるように致しました。それにつきましては、学生から、「オンデマンドなのにお互いにアドバイスやレスポンスを得られてよかった」という声をもらいました。来年度も対面で行えない授業が多いと思いますので、オンデマンドでも学生がアクティブに学ぶ機会を提供できるようにしていきたいです。

独自に工夫している点

オンデマンドで行う授業のため、飽きないよう20分の動画に1つの課題を出すようにした。動画は3本用意したため、毎回の授業で3つの課題を用意した。学生が課題を提出して終わりではなく、教員から必ずコメントを返すようにし、オンデマンドながら双方向での授業を心がけた。質問してくる学生も数名おり、一つ一つ回答し、学生が理解を深めるように心がけた。

改善点

学生が考えて記載できる課題を多く設定したが、その前に事実を調べて考えることができる内容にしていきたい。課題に負担が大きいと感じる学生もいたようだが、事後学習を含めても時間内で行うには少ない課題だったと感じている。

オンライン授業では、授業中のグループワークが活発に行えるよう、事前にディスカッションの観点を明確に示している。今後の遠隔授業においては、科目の特徴や受講生数に応じた展開を工夫する必要がある。特に、オンデマンド授業ではフィードバックを十分かつ円滑に行うことが課題である。

1年生の授業では、まずは入学後の学生の不安を少しでも解消することを第一に考えた。他の担当教員と協力し、幼児教育選修への親しみや授業への希望が抱けるよう意識して、教員紹介動画や大学紹介動画を作成した。担当回では、学生同士の交流を図ることを目的として、zoomを用いたオンライン授業で行った。アンケートからはそれらの工夫が多少なりと学生の不安を和らげる助けになったと感じている。一方で、対面で行っていた際の授業内容について全てを遠隔で伝えることは難しかったため、後期の授業、また2年生の授業において補っていきたい。

対面での授業が必須のため後期の開講とした。

遠隔での対応として、動画提出による指導を行った。対面で行えない分、丁寧にコメントすることを心がけた。課題の種類や量を工夫したことで、十分ではないがオンデマンド授業でできる限りの指導はできたと考えている。

入学したばかりの学生の通信環境、練習環境に合わせて授業を進めるように配慮した。また、zoomやyoutubeを利用し、学生同士の交流を兼ねた課題を設け、学生が楽しみながら互いに見合う、聴き合う機会とした。遠隔授業の特性上、本来の対面授業の内容が十分に行えたわけではなく、それについては後期の授業、また2年生以降の授業で補っていきたい。

資料の提示を工夫し、学生が理解しやすいよう心がけた。また他専攻の初対面同士の学生を対象とした授業であったが、少しでも楽しめるようzoomやyoutubeを活用し、学生同士の交流を図った。しかし、実践的な内容については遠隔での指導に限界があり、今後はさらに資料の提示や説明を工夫するとともに感染対策に配慮しながら対面授業も行って行きたい。

オンデマンド方式での授業の場合、パワーポイントのスライドに授業と同様の音声を付けた動画をone driveにアップロードし、それを共有することで学生に公開していたが、この方式の場合、巻き戻しができないとの記述がアンケートにあった。この点は改善が必要であると考えたので、来年度もオンライン授業(オンデマンド方式)が続く場合には工夫をしたいと思う。

なお、パワーポイントに付けた音声途中で切れてしまうことがある、との指摘があったが、私の手元では確認することができず、対応することが困難であった。

法令・制度など学生にとって難しく感じる内容を多く扱うため、映像資料などを活用して、社会の問題を身近に考えることができるように工夫している。また、オンデマンド型の授業で双方向型のやり取りが困難であったため、毎回の授業で作業課題に加えて授業コメントの提出を求めた。提出された授業コメントは、抜粋して「受講者の声」として資料配布するとともに、授業内で一部を紹介することで他の受講生の意見を聴いたり、自分の学修方法を見直す手助けとなるようにした。授業評価アンケートの結果からは、オンデマンド型授業での音声付スライド資料での受講について、概ねシラバスに沿った学習効果を得ることができたと考えられる。一方で、授業内での質問や対話の機会が限定的であったことから、より一層の工夫が必要であった。オンデマンド型授業とライブ授業を組み合わせるなど、オンライン授業の中で学生の参加を促していくよう改善していきたい。

コロナのせいで、このアンケートを整理するのは明らかに困難な時期でしたが、質問は少なく、かなり一般的でした。積極的に、いくつかの有益な個別のコメントがありました。